

令和4年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	附属旭川「12年教育」の実現 －多様な人と関わり，豊かな人生を切り拓く人材の育成〔中学校編〕－															
事業実施代表者名	附属旭川中学校長 川邊 淳子															
実施附属学校名	附属旭川中学校															
事業内容 (実施内容について， 1,000字程度で記述)	<p>これまで旭川地区で進めてきた幼小中の「12年道徳」を，今般求められるグローバル化・ダイバーシティ社会への対応を踏まえて取組を拡充するものである。</p> <p>これまで実施してきた「道徳適性」に加えて，変化の激しい世の中で，グローバル人材としてたくましく生き抜く力に関わる「GRIT」や「非認知能力」の育成を目指し，最終的には幼小中が連携し，園児児童生徒の成長を総合的に的確に記録化し，把握するためのカルテ“新しい通知表”に関わる調査・研究である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 道徳適性検査の実施 2 「GRIT」や「非認知能力」に係る実態把握 3 生徒及び保護者への啓発重視 4 道徳教育の改善・充実に係る講師講話 															
成果と課題 (活動の成果と課題について， 500字程度で記述)	<ol style="list-style-type: none"> 1 「道徳適性検査」については，R4，11月22日に実施し結果の分析を教員で共通理解した。 <table border="1" data-bbox="624 1205 1286 1346"> <thead> <tr> <th></th> <th>附小(6年)</th> <th>附中(1年)</th> <th>附中(2年)</th> <th>附中(3年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 向上心，真理探究など</td> <td>80%</td> <td>73% (82%)</td> <td>81% (85%)</td> <td>74% (83%)</td> </tr> <tr> <td>B 思いやり</td> <td>77%</td> <td>81% (85%)</td> <td>88% (88%)</td> <td>83% (86%)</td> </tr> </tbody> </table> 2 「GRIT」や「非認知能力」の育成について，年度当初から，月に2回の研究に関わる会議において定期的に扱ってきた。 <ol style="list-style-type: none"> ①指導する側の教員の理解促進 計：21回（R5.2/13まで）の研修 ②指導計画との関連，位置付けの確認，検証サイクルの構築 <ul style="list-style-type: none"> ・教科の指導計画・評価計画への位置付け ※第3観点との関連を検討 ・前期・後期，中間の3回の評価・評定の妥当性の検証 ・「GRIT」や「非認知能力」については，教員及び生徒に調査を実施し，課題を洗い出した。※成果は省略 【大きなカテゴリー】 ▲ 向上心，自制心，忍耐力，回復力，協調性・社交性 【資質能力】 ▲ 自分の将来と学びを関連付けること ▲ 見通しを持つこと・主体的な振り返り など 		附小(6年)	附中(1年)	附中(2年)	附中(3年)	A 向上心，真理探究など	80%	73% (82%)	81% (85%)	74% (83%)	B 思いやり	77%	81% (85%)	88% (88%)	83% (86%)
	附小(6年)	附中(1年)	附中(2年)	附中(3年)												
A 向上心，真理探究など	80%	73% (82%)	81% (85%)	74% (83%)												
B 思いやり	77%	81% (85%)	88% (88%)	83% (86%)												

	<p>③生徒及び保護者向けの啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け：連絡進学（小6）への指導、入学志願者説明会、学年・学級の立ち上げ、学級活動、総合的な学習の時間、道徳の時間など ・保護者向け：入学者説明会、入学式後説明、学年懇談資料、3者面談時、2者面談時など <p>3 幼小中の12年間を見取るシートの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小中で、それぞれ育むべき資質と、それらを見取る場面などの洗い出し、各校園において実践を進めている。 <p>4 道徳教育に係る講師講話（7/19実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標と指導方法の関連について理解を深めた。 ・成果を10/14実施のセミナーで授業公開した。
<p>今後の発展性 （残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述）</p>	<p>1 道徳適性検査については、小学校と連携を図り9年間の長期的なスパンで児童生徒の育ちをモニターする取組を継続する。小中の教職員間でも共有し、共通理解を図り、幼稚園にも情報提供する。</p> <p>2 ヒドゥンカリキュラムの色合いが強いことから、全教員が様々な教育活動において、育み・高めることを意識して指導に臨むことができるように、研修機会を定期的を設定する。</p> <p>3 「コロナ禍」を経てウィズ・コロナの時代にあっては、生徒に対しても保護者に対しても、説明・理解を図る機会を意図的に設定するなど、啓発機会を工夫する必要がある。</p>
<p>事業の公表状況 （事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入）</p>	

（注）当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。

支出実績額内訳

(附属学校名 附属旭川中学校)

区 分	予算額	支出実績額	内訳 (簡潔に記載すること)
旅 費	千円	千円	
謝 金			
備 品 費		331	ノートPC 2台 331,100円
消耗品費		160	道徳適性検査 313人分 156,500円 実施手引 9クラス分 3,600円
		25	レーザーポインター 2台 28,600円 ※不足分3,642円は附属学校運営費で負担
		6	HDMIケーブル 2本 5,842円
そ の 他			
合 計	522	522	